

よりに豊玉毘賣命を加ふと云へれば二座あるは後人のしわざ也又按に和多都美御子神とあるは海神の御子神と云事にて舊不合命にはおはさぬなるべし御母は海神の女なれど其御母につきて舊不合命を海神の御子と申すべき謂なければなり

官社 仁明天皇承和七年十一月庚辰對馬島和多都美御子神

預三官社

祭日 八月廿五日

社格 村社

所在 仁位村 宇實(下縣郡仁位村)

胡祿神

祭神 表津綿積命

中津綿積命

底津綿積命

今按長崎縣式内社記に祭神綿津見三柱大神とみえ由緒書に神功皇后韓國に幸し玉ふ時此琴崎東澳を過て御船を繋ぎ給ふ御船の碇海底に沈みつるを以て掬取安曇磯武良海中に入て碇を取上ると云今の祭場は皇后の行宮故跡なりと云る安曇磯武良は安曇磯良なご八幡愚童訓の類にみえたる同人と聞え此人名古書には見あたらねご海神の末裔にて皇后の御時に舟楫に功ありし人なりけんを誤り傳へたるものなるべしさて思ふに此人名を傳へて祭神綿津美

神と云るは由あるべしされご胡祿神社に此神を祭れる由縁詳ならず故今姑く社傳に従ふ

神位 仁明天皇承和八年戊午奉授對馬島先位胡祿神從五位下 清和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授對馬島從五位上 胡祿神正五位下

祭日 一月七日

社格 村社

所在 琴村 宇琴(上縣郡琴村)

胡祿御子神社

祭神 豊玉毘賣命

表筒男命

中筒男命

底筒男命

今按長崎縣式内社記に祭神豊玉毘賣命表筒男中筒男底筒男命とあれごもとは住吉三柱神なるを胡祿御子神社とあるに依りて豊玉毘賣を加へたる由なれば從がたし又住吉三柱神を祭ると云は神功皇后の祭り玉ふ處と云傳ふるのみにて確證なければ疑はしきに似たれど姑く社説に従て記せり

神位 仁明天皇承和四年二月戊戌對馬島上縣郡先位胡祿御子神奉授從五位下 清和天皇貞觀十二年三月五日丁巳詔授對馬島從五位上 胡祿御子神正五位下

祭日 三月三日

社格 村社

所在 長崎縣琴村 宇琴(上縣郡琴村)

島大國魂神御子神社

祭神

今按式内社記もと大己貴命一座なれど國史を考るに狭手依比賣神なるべし依て之を加祭るとあるは島大國魂と云に就ての説ながら其島大國魂御子神なれば必ずしも狭手依比賣ごも定めがたく又大己貴命にもあるべからず 神位 清和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授對馬島大國魂神御子神從五位上

祭日 十一月一日

社格 村社

所在 佐須奈村 宇地(上縣郡佐須奈村)

大島神社

祭神 彦火々出見尊

豊玉姬命

今按長崎縣式内社記に舊神官家系を記して長岡續生家系徳高見命八代孫阿曇龍高山城國乙訓郡長岡の神官津島の國に渡り大島神社宮司となり當代長岡續生に至るまで百卅一代連綿すとみえ祭神彦火々出見命豊玉毘賣命を祭る

對馬島 下縣郡

ごあるに合せ考るときは其安曇氏の祖神を祭れるものなる事明也故今之に従ふ

祭日 六月初末日

社格 村社

所在 仁位村 宇海(下縣郡仁位村)

波良波神社

祭神 豊玉彦命

今按明細帳式内社記共に祭神豊玉彦神とあれご其傳説も詳かならねば疑はし附て後考を俟つ

官社 仁明天皇承和七年十一月庚辰對馬島波良波神項三官社

祭日 六月一日

社格 村社(明細帳になし仁位村和多都美神社境)

所在 仁位村 大島神(下縣郡仁位村和多都美神社境内)

下縣郡十三座

高御魂神社 名神 大四座 小九座

祭神 高皇產靈尊

建彌己巳命

今按明細帳式内社記共に祭神を記す事右の如し高皇產靈尊は事もなけれど建彌己巳命は國造本紀に津島縣直樞原